

令和7年度

板野中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 家庭学習を通して、主体的態度を育成し、知識・技能の習得の強化に繋げる
- 課題に対して生徒自身で収集した情報を整理・分析し、適切にまとめ、表現する力を育成する

校長

高畑 聖

学力向上推進員

林 拓磨

【各校の取組状況の把握について】

アンケートの実施、研究授業での報告、授業での成果物

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○短答式の問題について正答率が高く、基本的な用語の理解や、計算力は身につけている生徒が多い。 ●授業の際には理解できるが、長期的に記憶することが難しい生徒が多い。	・基本的な知識・技能の習得に継続して取り組むことができる。 ・授業だけではなく、家庭学習やすき間時間にもくり返し学習に取り組むことができる。	・単元のめあてを設定する。 ・まとめ・ふりかえりを単元のまとめり等で行う。 ・自主学習ノートに毎日取り組ませる。(繰り返し学習を推奨する) ・AI型教材「キュビナ」を導入し、朝学習や授業のすき間時間、家庭学習においてくり返し学習できる環境を整える。	・AI型教材「キュビナ」と紙媒体のワークやプリントをうまく併用し、それぞれの教材のよいところを生かし、生徒の学力向上につなげる。	・単元のめあてを設定する授業を取り入れたことで、生徒が主体的に情報を集め、まとめる力が身についた。 ・AI型教材で朝学習やすき間時間などにも学習に取り組むことができたが、自分自身の課題に応じた学習に取り組んでいる生徒は少なかった。	・生徒が自ら知識を獲得できるような発問を工夫する。 ・AI型教材と紙媒体のワークやプリントをうまく併用し、生徒の学力向上につなげる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友だちの意見を参考にして、自分の考えをまとめることができる生徒は多い。 ●課題に応じて取り入れた情報を整理・分析したり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・何が課題なのかを生徒自身で設定することができる。 ・基本的な知識や収集した情報を組み合わせ、課題解決に繋げることができる。また、解決方法を説明することができる。	・情報の収集・分析・活用でタブレットを効果的に活用し、生徒の情報活用能力の育成に繋げる。 ・単元レベルで授業を組み立て、生徒主体で学習を進められる発問を設定する。 ・週1回のNIE活動で、自分の考えを表現させる。(新聞切り抜き感想シート)	・NIE活動について年度当初からタブレット端末を使っていたが、紙媒体に切り替える。 新聞記事については阿波っ子タイムズを活用する。	・情報の収集や整理・分析の学習過程において、生徒がタブレットを通して仲間の意見を参照し、自分の考えを深めることができた。 ・NIE活動を紙媒体で実施することで、取り組む生徒の割合が向上した。	・学習形態や単元構成を工夫し、さらに生徒主体の授業作りに努める。 ・すべてをICTに置き換えるのではなく、活動の特性に合わせて、手段を選択していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○予鈴着席ができている、授業態度が落ち着いている、教科内容で分からないところがあれば教師に質問に来る。 ●家庭学習時間が確保できていない生徒が多い。	・授業開始2分前から静かに学習準備ができる。 ・家庭学習時間を確保し、主体的に学習に取り組むことができる。	・年5回、「家庭学習強化週間」を実施する。(生徒自身が「生活振り返りシート」に放課後の家庭学習の状況を記録し、どうすれば家庭学習時間を確保できるかを考え、実践する)		・定期テスト前に「生活振り返りシート」への記入を実施したことで、生徒自身が生活習慣を見直し、学習への意欲を高められた。	・教師の画一的な指示を見直し、AI教材を積極的に活用した個別最適な学習を確立する。 ・ICTを活用したCoching型の授業をより一層推進し、協同的な学習を確立する。